

# 平成26年度過疎地域等自立活性化推進交付金 過疎地域等自立活性化推進事業概要一覧



総務省地域力創造グループ  
過疎対策室

# 過疎地域等自立活性化推進交付金の活用事例(平成26年度)

## ○産業の振興(スモールビジネス振興)

北海道洞爺湖町:世界ジオパーク認定地の「地域力」創造事業～4つの輝きプロジェクト～	… 1
北海道下川町:森林文化デザイン商品化プロジェクト	… 2
岩手県久慈市:日本一の白樺林が生み出した平庭高原「森の恵み・白樺の一滴」活用推進プロジェクト事業	… 3
福島県西会津町:「にしあいづ健康ミネラル野菜」で元気なまちづくり事業	… 4
千葉県南房総市:地域資源を活用した枇杷と花のまち活性化事業	… 5
長野県小海町:鞍掛豆特産品開発による地域の元気創出事業	… 6
滋賀県高島市:高島地域材流通促進事業・林業6次産業化事業体プロデュース事業	… 7
徳島県神山町:里山みらい創造事業	… 8
愛媛県西予市:渡江 笑美FULLプロジェクト	… 9

## ○生活の安心・安全確保対策

群馬県東吾妻町:東吾妻町ICT安心・安全プロジェクト	…10
宮崎県木城町:木城町地域公共交通構築事業	…11

## ○集落の維持・活性化対策

岡山県西粟倉村:小さな村ならではの教育を核とした“学び”でつながるむらづくり	…12
広島県府中市:市民の生活を支え地域の魅力を高める公共交通	…13
高知県本山町:“美しい村もとやま”の住民のまちづくり	…14
熊本県相良村:相良村集落維持・活性化プロジェクト	…15

## ○移住・交流・若者の定住促進対策

北海道安平町:地域情報コミュニティ放送「あびらチャンネル」を活用した地域ブランディング事業	…16
山形県小国町:協働・交流・連携による新たな地域づくり推進事業	…17
三重県熊野市:世界遺産熊野古道を活用した集客交流推進事業	…18
長崎県壱岐市:島民参加型観光ネットワーク整備事業	…19
鹿児島県伊仙町:シルバー人材と再利用資材を活用した低コスト空き家改修事業	…20

## ○地域文化伝承対策

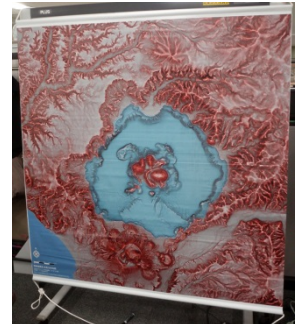
石川県輪島市:輪島未来創造 若者×高齢者<TSUNAGARU～つながる～>地域文化「輪島朝市」継承事業	…21
和歌山県九度山町:真田幸村公 大阪城入城400周年を活かした地域づくり事業	…22
山口県山口市:「徳地和紙」に代表される“和”産業の振興による伝統文化の継承事業 ～地域の伝統文化を後世に伝えるものづくりと交流による職人の育成～	…23
大分県竹田市:価値観再生と地域磨きによる農村回帰たけたプロジェクト ～「たけた市(いち)」「エコミュージアム地域資源発掘」でふるさと高付加価値化～	…24

# 世界ジオパーク認定地の「地域力」創造事業 ～4つの輝きプロジェクト～

## 概要

洞爺湖町では、地域そのものの商品化を図る「地域まるごとブランド」の考え方のもと、人材育成や体験メニューづくり、「食」の取組を元に地域資源に磨きをかけ、他にはない世界ジオパーク認定地としての「地域ブランド」を生み出し、「育てる町」・「学びの町」・「魅力ある町」・「活気ある町」の4つの輝きを創るための事業を展開した。

## 北海道洞爺湖町



## 事業の内容

### 施策体系

### 実施事業

#### 地域力(魅力的輝き)

輝き1  
育てる町

優位性の発揮と高付加価値化  
優位性を最大限生かし、オンリーワンの付加価値を生み出す！  
◇「ふるさと散歩道」ブック作成事業  
◇日本ジオパークネットワーク活用事業  
◇ジオ食材活用事業(ジオビザ洞爺湖町モデル)

輝き2  
学びの町

地域まるごと楽しむ  
ジオパーク資源の価値を知り、住民まるごとで故郷の魅力を語る！  
◇ふるさとの魅力再発見キット作製事業  
◇「洞爺タイムトラベル」事業  
◇散歩の達人と歩く「ふるさと散歩」事業

輝き3  
魅力ある町

思い出の地は忘れない  
「行ってみたい、来てよかった、また行こう」と思われる思い出の地！  
◇ジオパークコンシェルジュ養成事業  
◇ジオパークインパクト事業  
◇「大地のポケット」作製事業

輝き4  
活気ある町

総事業費 11.4百万円

- 1 ジオパークへの理解・ジオの魅力、全町の拡大  
◇ふるさとの魅力再発見キット作製事業……………1,400千円  
ジオパークを説明する教材をトランクに収納し、出前講座や授業で活用。  
◇「ふるさと散歩道」ブック作製事業……………1,327千円  
「すこやかロード」と連動し、有珠山以外のジオパークの魅力を開拓。
- 2 酪農学園大学との連携・地域食材でまちづくり  
◇ジオ食材活用事業(ジオビザ洞爺湖町モデル)………1,971千円  
酪農学園大学への委託事業(町モデルの提案他)及び地域への普及事業
- 3 ジオネット活用と変動する大地の生活  
◇「洞爺 タイムトラベル」事業……………1,145千円  
過去・現在・そして未来へ 写真で振り返るふるさと再発見(故郷教材)  
◇日本ジオパークネットワーク活用事業……………1,613千円  
全国36のジオパークの大地が育んだ産物の物語 ジオの生活と恵み展
- 4 ジオ資源の高付加価値化・人づくり(もてなし)  
◇ジオパークコンシェルジュ養成事業……………320千円  
柔軟で小回りの利く交通・もてなし機能の強化  
◇散歩の達人と歩く「ふるさと散歩」事業……………536千円  
◇ジオパークインパクト事業……………1,433千円  
ふるさとの食材の美味しいわけをメッセージカード化(大地の恵み物語)  
◇「大地のポケット」作製事業……………1,527千円  
ジオの食材や産物を詰め込んで、素敵なジオパークの物語と一緒に持ち帰ってもらう、オリジナルのトートバック作成(訪問動機づけ)

## 事業の成果

地域力(魅力的輝き)で産業振興  
旅行目的の訪問動機づけで地域まるごと商い、滞在時間延長戦略で外貨獲得  
1 優位性と付加価値 2 楽しいことの大切さ 3 思い出の地

# 森林文化デザイン商品化プロジェクト

## 概要

- ・人口約3,500人、総面積の9割が森林。人口減少により地域産業衰退や後継者不足など深刻化。
- ・比較優位である森林に携わる産業による雇用拡大や地域経済の活性化が望まれるが、木製品等の販路拡大や仕事の魅力向上が課題。
- ・地域最大の資源を活かし、地域に根付く「森林文化」を活かした売れる製品づくりを実施。

## 事業の内容

### 事業の内容

森林に携わる仕事や暮らし、イベント等から生まれた森林文化を活かし、デザイナーやカラーコーディネーター、建築家など、デザイン等の専門家と連携した製品開発やPR、その背景となる森林に関する産業や地域そのもののプロモーションを実施。

### 総事業費

10.7百万円

### ポイント

森林文化をデザインで製品に体现

木製品のデザインコンペ「木のデザイン公募展」の入賞作品、住民とともに決定した下川の森のシンボルカラー「Shimokawa Green」、巨樹「七尺ニレ」、地域材を活用した環境に配慮した高機能な住宅「森とイエプロジェクト」など地域固有の風土の中で育まれた「森林文化」を活用。

## 事業の成果

森林文化を活かした製品の開発やPR、その背景となる森林に関する産業や地域そのもののプロモーションを実施したことで、雇用機会の創出や森林ブランド、地域ブランドの構築、移住定住へのアプローチなど、今後の展開に大きな期待が持てる。

## 北海道下川町



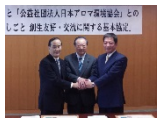
地域性豊かな森林文化を活用し、



デザイン等の専門家と連携



地域プロモーションの実施



雇用拡大、森林ブランドの創出、移住等の推進を図る

## 概要

提案の背景: 過疎化や超高齢化が進む中、産業の振興及び雇用の創出、観光客の増加をめざす。そのために、平庭高原の域資源を掘り起こし、白樺の樹液を活用した特産品づくりを進め、過疎地に新しい産業を創出し地域の活性化を図りたい。

## 事業の内容

### 事業の内容

- 平庭高原「森の恵み・白樺の一滴」活用推進協議会設置による推進体制整備。
- 日本一の白樺林を活用した産業創出の検討による地域経済の振興を図る。
- 白樺の樹液の商品化等に向けた活用分析・商品開発の取り組み。

### 総事業費

10.5百万円

### ポイント

平庭高原の白樺林を活用した産業の創出

- ☞ 白樺樹液の長期間保存を可能とすることで商品開発に結び付けられるか。
- ☞ 白樺「日本一」を自負するも、平庭高原＝白樺林の知名度・認知度は低い。

## 事業の成果

- 山形町平庭高原の地域活性化のため新たな組織を結成することができた。
- 白樺樹液の保存活用の確立により、産業振興と雇用創出に大きな期待。
- 平庭高原の白樺林を「日本一の白樺美林」として調査・証明することができた。  
(現地調査と衛星画像解析により、白樺生育本数310,846本と推計。)

## 岩手県久慈市



協議会設立総会

## 商品・料理等の開発



山ぶどう  
白樺ジュース

森の恵み・  
白樺の一滴



白樺樹液  
炭酸パック

白樺  
コースター



白樺カレー

白樺ラーメン



白樺樹液の短角  
牛しゃぶしゃぶ

# 「にしあいづ健康ミネラル野菜」で元気なまちづくり事業

## 概要

町民の健康づくりから始まった「ミネラル野菜」は町農業政策の主要施策となり、栽培普及のための生産団体の組織化、栽培用パイプハウスのリース、栽培指導員の配置などに取り組み、栽培面積は約15ヘクタールに拡大している。しかし、栽培農家の高齢化や担い手不足により今後の生産減少が懸念される。

今後直売所面積の拡大等により需要が拡大する見込であることから、生産面積拡大による産地化を目指し、農家所得向上と元気な農業経営による地域の活性化を図る。

## 事業の内容

### 事業の内容

- ◆普及拡大プロジェクト～ミネラル栽培のメリットを知って頂くための講演会、先進地視察、土壌成分分析等により新規取り組み者の誘導と栽培技術向上を図った。
- ◆生産拡大プロジェクト～果樹の試作のための新規作物栽培調査、省力化により生産性向上と栽培拡大につなげる農業用機械整備補助、栽培拡大補助により生産拡大を図った。
- ◆販路促進プロジェクト～成分分析による付加価値農産物のPR及びその結果を使用した販売戦略、商標登録、年間を通じた販売を調査するための直売所集荷調査により、販売促進を図った。

### 総事業費

10.1百万円

### ポイント

一般野菜との差別化を図るためミネラル野菜の成分分析をした結果、糖度やビタミン、ミネラル分が高いことが証明された。この結果を基にリーフレットを作成し、販売拡大につなげることにした。

また、機械整備や新規作物試作など今後の生産拡大への基盤整備ができた。

## 事業の成果

高齢化や後継者不足によりミネラル野菜の生産農家数と栽培面積が減少していたが、平成26年度は共に増加(生産者112戸→121戸、作付面積1,536アール→1,610アール)し、出荷高も97,547千円から113,699千円に増加した。平成28年度に直売所が拡大することから、ミネラル野菜のブランド品としての定着と販売促進を進め、農地の有効活用と地域活性化を図る。

## 福島県西会津町



農業講演会



認定圃場看板



登録商標「ミネラルっ娘」

# 地域資源を活用した枇杷と花のまち活性化事業

## 概要

房州枇杷や花卉は特産物として生産されているが、生産者の高齢化と生産経費の増加等の課題がある。一方、枇杷葉には古くから薬効があるといわれているが、科学的な検証は進んでいないため、効果的な商品開発が困難な状態である。このことから、農家の生産経費を下げるため、施設園芸用薪暖房機で使用する薪の製造等の効率化とコスト削減を図る。また、枇杷栽培の作業性向上のために枇杷の実験植樹等を行うとともに、枇杷葉の機能性を活かした新商品を開発し、枇杷葉を出荷品目として確立し、農家の経営安定を図る。

## 千葉県南房総市



## 事業の内容

### 事業の内容

- 施設園芸暖房機用薪の低価格化：薪製造機の導入等による製造、運搬の効率化。
- 作業性向上に向けた枇杷植樹：枇杷の低樹高栽培の導入、耕作放棄地での生育実験。
- 枇杷葉機能性調査研究：枇杷葉の機能性を食品科学の観点から実証するための調査研究。
- 枇杷葉ブランド戦略の立案及び新商品開発：枇杷葉を活用した新商品の開発、中長期販売手法の立案。

### 総事業費

11.0百万円

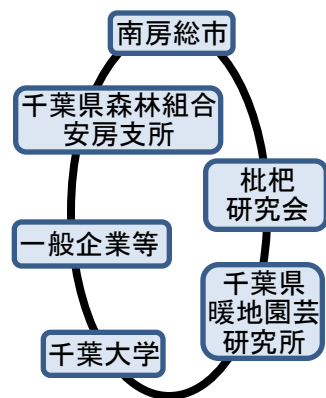
### ポイント

- 地域資源である木質バイオマスのエネルギー利用を促進させる。
- 枇杷葉の持つ機能性の一部を科学的に明らかにする。
- 地域のキラークンテンツとなる特産品の中長期的なブランド戦略を立てる。

## 事業の成果

- 薪1立米の製造及び配送に係る経費が8,074円が6,105円に改善される調査結果が出た。
- 枇杷の作業性向上のために平地による低樹高栽培、及び耕作放棄地での新たな栽培作物としての基盤が整備された。
- 枇杷葉機能性の既存報告は、有機溶媒による抽出物の効果であり、水抽出物の機能性に関する科学研究はあまり進んでいない。今回の研究で枇杷葉の水抽出物が脂肪細胞の分化の促進作用を示すことが示唆された。
- 枇杷の果実のみならず、枇杷葉に付加価値を付けてブランドを強化する方針を明らかにした。

### 事業実施体制



# 鞍掛豆特産品開発による地域の元気創出事業

## 概要

小海町では高原特有の冷涼な気候を活かし、高原野菜の栽培が盛んに行われるようになったが、近年の生産価格の低迷、外食産業の低迷、農業者の高齢化・後継者不足による農地の遊休荒廃化等、農業を取り囲む環境は厳しい。その現状を打破すべく、まだ全国的に認知度の低い、また高齢者でも比較的栽培しやすい鞍掛豆の栽培、鞍掛豆を使用した商品開発・新調理法の研究提示、認知度向上のための販売促進を実施し、農地の遊休荒廃化の抑制、町内食品加工関係及び小売店の活性化、高齢農業者の生きがい対策などを目的に実施する。

## 事業の内容

### 事業の内容

- 鞍掛豆認知度向上のための販売促進
- 鞍掛豆を使用した新調理法の研究、新商品開発
- 鞍掛豆料理コンテストの開催及びそのレシピ集の作成

### 総事業費

10.3百万円

### ポイント

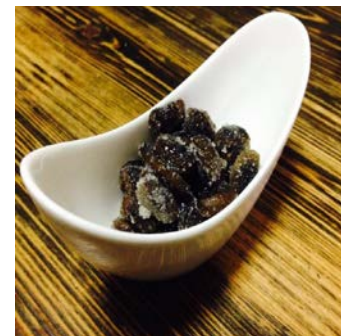
鞍掛豆という地域資源を活用した販売促進、新調理法の研究提示・商品開発、レシピ集の作成等により、地域産業の振興、地域の人々が生き生きと生活できる地域づくり、情報発信の活発化による交流人口の増加、子どもを主とした郷土愛の醸成を目指す。

## 事業の成果

上記事業の内容の実施により、販売促進では、鞍掛豆の認知度の向上、鞍掛豆豆腐を製造加工する店舗等、町内食品加工関係及び小売店の活性化が図られ、新調理法の研究・商品開発では複数の新調理法・新商品が開発され、今後の事業展開へ繋がる礎が築かれた。また小学生を対象とした鞍掛豆豆腐の製造体験の実施による児童の郷土愛の醸成も図られた。

今後は成果である開発された商品、新調理法、レシピ集を基に、町内外の一般家庭、飲食店、企業等に広く働きかけ、営業をし、一般家庭での料理、飲食店等でのメニュー化等を目指し、販売促進とあわせ、鞍掛豆の消費拡大を目指す。

## 長野県小海町





# 高島地域材流通促進事業・林業6次産業化事業体プロデュース事業

## 概要

森林面積が92%を占める高島市朽木地域は、約半数はスギを主体とした人工林が占めており、これらが本格的な利用期を迎えている。朽木地域の基幹産業である林業の再興を図るには、市内で木材加工を行い、その販売を担う6次産業化事業体を設立し、市内産木材に付加価値をつけることが望まれている。

滋賀県高島市



森林組合との  
意見交換会

## 事業の内容

### 事業の内容

6次産業化事業体を設立するための調査業務と事業計画の策定

### 総事業費

10.1百万円

### ポイント

#### 【1次産業としての強化】

施業集約化により、素材生産量の増加。

#### 【事業体設立に伴うリスク】

事業体の運営における「仮説と検証」を十分に行い、可能な限り、リスクを排除する必要がある。



先進地視察状況

## 事業の成果

朽木地域を中心とした高島市全体の森林・林業の再生のため、木材市況の変化を勘案し、「林業6次産業化事業体」の事業計画を策定した。

森林・林業の再生と地域経済への貢献、林業関係者の意識醸成を促し、リスクが伴うものの、実現性の高い計画となった。

# 里山みらい創造事業

## 概要

サテライトオフィスは企業誘致のためのものであるが、人材誘致のためのものでもある。ここでできた都会とのつながりを活かし、都会と田舎が一緒になって「お互いの暮らしを支えあう」。こんなことが、これからの日本の姿ではないかと考えた。「都会に住むか、田舎に住むか。」そんな問いかけはあまり意味を持たなくなってきたかもしれません。

## 事業の内容

### 事業の内容

都会に暮らす住民に「神山すだち住民(ふるさと登録)」になってもらい、ふるさと納税で地域を応援していただく。年3回のおすそわけ便、万が一の時は、助け合える関係を構築。

日本一の生産量を誇る「すだち」のB級品を東京に売り込むイベントを12店舗で展開。次年度以降に販売できる見通しとなった。

### 総事業費

10.1百万円

### ポイント

○都会に暮らしながら、田舎の野菜が届いたり、気軽に訪れられる。そんな心のふるさととして、特別住民証を発行。田舎と都会がより深く、より近くなる取り組み。

## 事業の成果

- 神山すだち住民制度、NPO法人の発足、農家民宿の勉強会
- 里山みらい(<http://satoyama-mirai.jp>)活動紹介ページ
- 里山八百物店(<http://yaomono.net>)業務用通販サイト
- 東京すだち遍路(9月6～21日・12店舗)・神山ルビィアワード2015(3月1～22日・9人梅農家)
- すだちち(すだち果汁入り甘酒)・神山ルビィセット(梅干しギフト)

## 徳島県神山町



▲東京で生まれたすだちバーガー(バーガーマニア広尾店)



▲新商品「すだちち」の開発(すだち果汁入り甘酒)



▲伝統梅干しをお土産用にパッケージ化「利き梅セット」

# 渡江 笑美FULLプロジェクト

## 概要

主産業であるみかんを活かした「皮むき冷凍みかん」の商品開発。開発に当たって、徹底した話し合いと消費者の意識調査を実施。高齢者でも簡単な作業であり、地域を挙げた特産品化に成功。

## 事業の内容

### 事業の内容

ブランド力がなく、市場競争力で劣る当地域の柑橘。しかし、絶対の自信を持って紹介できる柑橘。この現状の流通ルートでは扱われない傷モノや規格外の柑橘。この埋もれた『商品』の皮をむき、旬の時期に収穫した一番美味しい状態でリキッドフリーザーという細胞を壊さない技術で凍結し、付加価値をつけ販売する。



完成した「とのえアイスみかん」

### 総事業費

10.0百万円

### ポイント

地域住民が何のためにこの事業に取り組むか、そのためにはどんなことをすべきか、そして自分にどんなことができるかが重要なポイントとなった。この3点について、ワークショップ、会合を開催し徹底的に話し合った結果、事業の目的、地域の目指すものを地区民が共有理解した。これで、地域が一体となり地元愛を胸に地域の共通課題「みかん」を通じた事業に取り組むことができた。

## 事業の成果

主幹産業であるみかんを活かした「皮むき冷凍みかん」の開発を行った。テストマーケティング、視察により消費者の嗜好や市場の動向を把握し、商品内容をより具体化した。さらに、地域をあげた特産品とするため住民との話し合いを重ね、パッケージは渡江地区を全面にPRするものと愛媛県イメージアップキャラクター「みきゃん」の2種類を構えた。製造作業には女性や高齢者が積極的に参画し、原材料のみかんも裏年に関わらず沢山出荷いただくなど、地域のまとまりができた。マイナス60度のリキッドフリーザーは、解凍しても全く味が変わらず、サンプルを提示した多様なチェーン店、卸、小売業者からの問合せがある。商談も進めており4月以降、品質と生産量に見合った販売ルートを確認していく。

## 愛媛県西予市



東京・築地でテストマーケティングを実施。対面方式で消費者の嗜好を生で感じる。



住民を集めて事業説明。当地区からビジネス発信する意気込みを全員で共有し、考える。



最新の冷凍機器を搬入。借り上げた空き家に設置し、商品の生産を開始する。

# 東吾妻町ICT安心・安全プロジェクト

## 概要

- 平成26年始めの大雪による孤立集落の発生など、比較的広大な面積を有する東吾妻町においては、災害時の迅速な被災状況の把握や復旧活動には人的施策だけでは限界があった。
- そこで、町内の5地区の避難場所・施設をICTで繋ぎ、災害時における地域住民の安心・安全の確保を図った。

## 事業の内容

### 事業の内容

町役場に防災システムを導入し、迅速な被災状況の把握や復旧活動を支援するとともに、避難場所にWi-Fi環境を整備・利用開放し、住民の安心・安全を確保する。

### 総事業費

13.1百万円

### ポイント

庁内向けICT(災害時の庁内事務を支援する防災システム)導入だけでなく、住民向けICT(Wi-Fi整備と住民への利用開放)を組合せた取組である。

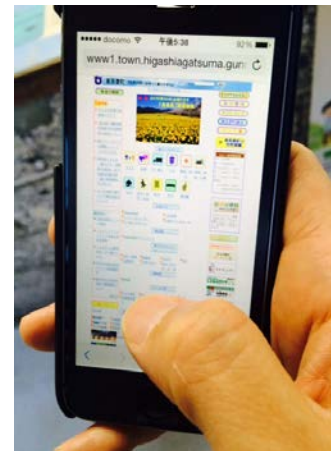
## 事業の成果

- ①役場へ防災システムを導入することで、各避難所からの連絡に伴い避難所別の避難・被災状況を把握するために要する時間が、従来に比べて20%短縮し、各避難所における被災状況の適正な管理および迅速な把握が可能となった。
- ②避難所にWi-Fi環境を整備し、避難所へ避難している住民に利用開放することにより、利用者の80%が、従来の避難所生活よりも精神的な負担が解消されるものと肯定的に評価した(訓練時のアンケート結果による)。

## 群馬県東吾妻町



災害情報を受け取る様子



スマートフォンに表示された防災システム

# 木城町地域公共交通構築事業

## 概要

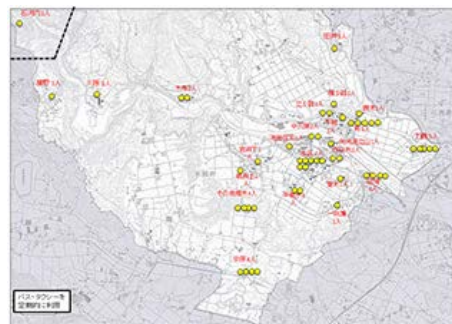
**提案の背景:** 過疎高齢化の進む山間部集落は高齢化率も高く、集落の維持が厳しい状況にあります。これまで生活環境の整備等により集落機能を高めておりますが、各集落からの公共交通手段が少なく、高齢者を中心とした病院や商業施設への移動に支障をきたしている状況にあります。

**事業の概要:** 山間部の高齢化率の高い集落及び高齢者を中心とした町内の公共交通状況を見直すことで、新たな生活交通手段の確保と地域公共交通の構築を目指します。

## 事業の内容

### 事業の内容

現状把握とニーズ調査を通じて木城町の公共交通が抱える課題を整理し、公共交通の利便性を向上し、住民の日常生活の移動手段を確保するために必要な施策の洗い出しを行うものです。



### 総事業費

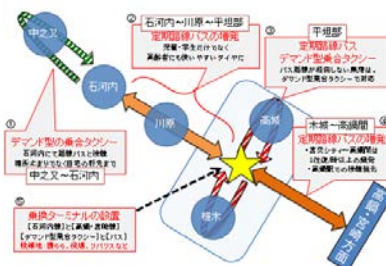
10.1百万円

### ポイント

本町の進める安全・安心のまちづくりを実現するためには、日常生活における移動手段として公共交通を確保することが重要です。本事業では、公共交通を確保し、利便性を向上するために必要な施策を整理し、事業の実現を目指します。

## 事業の成果

本町の公共交通の現状をふまえて問題点・課題点等の洗い出しを行い、これからの公共交通のあり方について、導入を検討すべき具体的施策を含めて明らかにしました。今後は、本事業の成果をもとに、公共交通の改善に向けて長期的に取り組んでいく必要があります。



## 宮崎県木城町



公共交通に対するニーズは、世代・居住地区、移動目的(小・中学校の登下校や通院・買い物)など、利用者の属性ごとに異なります。また、本町には、温泉施設や生涯学習施設など、町外からの来訪者が見込まれる施設もあります。

こうした多様なニーズに応えるために、既存の施設や車両の有効活用を図りながら、路線バス・デマンドタクシーなど、さまざまな手段を柔軟に組み合わせることにより、きめ細やかな公共交通体系を構築していきます。

高鍋・宮崎市方面とのアクセス向上の結節点として既存の観光施設である木城温泉館湯からの利用をします。

# 小さな村ならではの教育を核とした“学び”でつながるむらづくり

## 概要

人口減少や高齢化に悩む本村では、多くの地区において児童数の減少や小中学校の統合や閉校を危惧、懸念する声も大きく、従来の取組では課題解決に有効な手段を打ち出せていなかった。そこで、地域の将来を担う子どもとそれを取り巻く子育て世代から高齢世代にわたる全ての世代が取り組める、豊富な地域資源を活用した特色ある生涯学習プログラムの開発をはじめ、子どもとともに学び、育み、育まれるむらづくりを実践しようとした。

また、村ならではの教育環境は、自然環境だけでなく人が集まる場づくりも大切である。老朽化した教育インフラのマネージメントをトータルに考えた、小さな村に見合った施設整備と維持管理のあり方を住民と共に考えていく。

## 岡山県西粟倉村



住民ワークショップ  
こんな場になったらいいな！

## 事業の内容

### 事業の内容

“学び”をキーに  
住民の生涯学  
習ニーズを把握

- ワークショップ開催
- モデル地区での実践活動
- 子どもの体験活動への住民参画
- 小学校の自然体験交流活動実践

学びと交流の  
場検討(基本計  
画)

- 全住民アンケート実施
- こんな場になったらいいな検討ワークショップ開催

地産地消の基  
幹施設実現検  
討

- 木材供給検討会

### 総事業費

10.1百万円

### ポイント

「こんな事ができたらいいな」を考える事から始めて、住民の力で実際の「場」=学びの施設建設へ向かっていこうとしている。



考えた成果を発表しました

## 事業の成果

アンケートや住民とのワークショップを重ねることで、地域の活性化を、住民がいきいきと学ぶ姿を実現するという視点で共に考えていく事ができた。その過程で、住民から学びと交流の場に対する強い要望が明確になり、老朽化した教育インフラの整備の検討が、住民目線で進めていける素地ができた。

今後は、教育インフラを含めた基幹施設を平成30年度を目途に建設することを目指して、引き続き利用者である住民と検討を重ね、住民アンケートにも多く求められていた地元の材を使い地元で建設する地産地消の施設づくりを進めていく。

# 市民の生活を支え地域の魅力を高める公共交通

## 概要

効率的でより利便性の高い公共交通の再構築を行うため、平成25年度に「府中市地域公共交通総合連携計画」を策定した。公共交通の利便性の向上を図ることで、周辺地域の住民も公共・公益施設が集中する中心市街地の住民と同様の日常生活サービスが享受できることを目的とする。

## 事業の内容

### 事業の内容

- ・バスロケーションシステムの開発(インターネットによるバスの乗換案内、遅延等の情報提供)
- ・ワンコインバスの運行(運賃の引き下げによる実証実験)

### 総事業費

11.3百万円

### ポイント

- バスの運行状況をリアルタイムで確認することが可能となった。
- JR福塩線減便に伴う高齢者などの交通弱者の代替移動手段として、バス運賃をJR運賃並みに設定した、ワンコインバスを運行し、利便性を確保した。

## 事業の成果

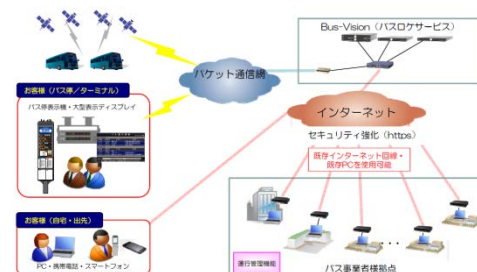
- ◆バスロケーションシステムの開発により、市内路線及び広域バス路線がインターネットを通して運行状況や乗換案内等をリアルタイムで確認できるようになった。
- ◆平成28年度開設予定の「道の駅」や「府中市民病院」バス停に当該システムを活用した電光表示付のバス停を設置する予定で、新たな交通結節点としての機能を併せ持つこととなる。
- ◆利用者減少の要因の一つとして高額な運賃体系が考えられる中、ワンコイン(500円)の運賃に設定したことでバス路線利用者が増え、他の市街地循環便等にも波及効果があった。

## 広島県府中市

- ・広島県東部内陸地に位置する人口42千人の小都市
- ・味噌、タンス、非鉄金属などのものづくりが盛んなまち



中山間地域と中心市街地を結ぶ路線バスのワンコインバス実証実験



バスロケーションシステムの概要図



バスロケーションシステム(スマートフォン仕様)

# “美しい村もとやま”の住民のまちづくり

## 概要

本山町の棚田や清流汗見川等では注目度も高くなっています。しかし、棚田や清流汗見川で開催される体験交流イベント等の集客は十分な内容ではなく、取り組みの魅力を感じるものの、その魅力を地域内外に十分に発信できていない状況で、本山町全体の魅力をしっかりと発信できる仕組みづくりが必要となっています。

## 高知県本山町



## 事業の内容

### 事業の内容

地域住民と大学生によるフィールドワーク等を行い、住民自らが、地域資源を再確認しながら資源を活用した取り組みを検討し実践を行った。以前は商店街として栄え、地域内外の多くの人々が集い、そこから情報の収集や発信が行われていた市街地を地域の住民自らが再生と活用を目指す活動が推進された。継続する着地型観光の仕組みづくりを行った。

### 総事業費

10.2百万円

### ポイント

- 地域資源活用で、外部から視点(学生、地域おこし協力隊)と地域の協働で実践
- 各種団体(観光協会、農業公社、個人等)の参加で着地型観光の推進体制の確立
- 地域で景観づくり植樹計画、移住者とまちかつ交流事業など継続する仕組み確立



## 事業の成果

- ・大学連携と地域協働 景観づくり植樹 100本 地元ほか50人参加
  - ・農山村交流事業 ①お山の手づくり市開催1,200人超来場者 ②観月会250人超
  - ・着地型観光 ①棚田オーナー制度 ②美しい村もとやまパンフ3,000部配布
- 次年度以降も地域づくり事業は継続、町内での体験型観光への取り組み機運が高まった。  
人・施設・文化・歴史など地域の資源を活用して、各種団体や地域おこし協力隊、移住者など連携して“まちなか”の賑わいづくり、連携づくりが進んだ。



# 相良村集落維持・活性化プロジェクト

## 概要

【事業実施の経緯・背景】本村では、人口減少と少子高齢化等の進展に伴い、集落機能の低下が深刻化しており、地域自らが多様な主体との連携のもと、地域の課題を認識・共有し、それを自主的・主体的に解決する力の醸成・向上を図っていく必要がある。

【事業の概要】地域住民が輝き、持続的な集落の維持・活性化につなげることを目的として、集落の計画策定、地域活動を担う人材の育成(地域リーダー育成)、フォーラムの開催、大学等と連携した地域活性化の取り組みを実施。

## 事業の内容

### 事業の内容

1. 上四浦地区の地域振興計画策定事業
  - ・地域住民が主体となり、集落が持続的に発展するような振興計画を策定。
2. 地域リーダー養成講座「相良村塾」の開催
  - ・地域のリーダー養成を目的として、地域づくり講演会の開催及び研修会へ参加した。
3. 輝くむらづくりに向けたフォーラムの開催
  - ・講演、分科会等を実施。
4. 大学等と連携したむらづくり事業
  - ・大学連携(竹あかり、村内調査等)、高校連携(村食材を使用したメニュー開発)を実施。

### 総事業費

10.1百万円

### ポイント

事業実施により、地域住民一人ひとりが課題解決に取り組むという意識の醸成につながり、集落の維持・活性化へ向けた取り組みの継続性・発展性にもつなげることができた。

## 事業の成果

- 地域住民及び職員の地域づくりへの意識の高まりや連帯感の醸成につながった。
- 維持・活性化に向けた意見を出し合い、地区住民が主体となって取り組む地域づくり計画を策定した。
- 村食材を使用したメニューを開発。「第3回ご当地！絶品うまいもん甲子園」に出場し村をPRした。

## 熊本県相良村



上四浦計画策定



地域リーダー養成



フォーラムの開催



大学等との連携

# 地域情報コミュニティ放送「あびらチャンネル」を活用した地域ブランディング事業

## 概要

新しいICTメディアである「エリア放送」を活用し、情報通信コミュニティにより新しい地域ブランドを発掘し町内外へ発信することで地域活性化を図ることを目的にその核として構築したメディアシステムの更なる活用を生み出す好循環を形成するため、魅力ある放送コンテンツの充実及び恒久的な事業運営の基盤づくりのためのコンサルティング事業を展開する。

## 事業の内容

**事業の内容** 既存メディアシステム「あびらチャンネル」をブランド化、継続的な運営を図るため下記の事業を展開。○地域ブランディングコンサルタント・PR動画コンテスト企画運營業務において「あびらチャンネル」のブランド化を目的とし、あびらチャンネルの開局記念イベントとして動画コンテストを実施。○放送コンテンツ制作及び制作における人材育成業務において、あびらチャンネル継続運営の観点から映像クリエイター講座を実施。参加者を町民から募り、その中から前述の動画コンテストへの出品へとつなげた。平行して、町内特産品のPR用CMの作成及びあびらチャンネル内で放送する番組テンプレートの作成を実施した。



**総事業費** 10.7百万円

**ポイント**

○既存メディアシステムあびらチャンネルの今後の継続運営を見据え、動画コンテストの実施、コンテンツ作成に関し町民と協働で運営できる体制づくりとしてクリエイター講座を開催し、町民による動画制作を行った。

## 事業の成果

○あびらチャンネルブランド化を目指す上での動画コンテストの実施により、継続開催するためのノウハウを蓄積することができた。○あびらチャンネルの継続性及び町民との協働作業の観点から実施したクリエイター講座の開催により町民による映像制作まで実施することができ、町民の意識の醸成も含め一定の成果を得た。○今後、継続的な運用、番組コンテンツなどにおける町民との協働制作に向け、町内団体等を巻き込んだ事業展開実施するとともに町内リソースの掘り起こしによる町外への安平町PR等に結びつける取り組みが必要と考える。

## 北海道安平町

**【事業実績】**  
(クリエイター講座)



(放送コンテンツ制作)  
※CM作成



(開局記念イベント)  
※動画コンテスト



# 協働・交流・連携による新たな地域づくり推進事業

## 概要

人口減少等の進行により、集落機能の維持・保全が困難になりつつある地域の地域づくりに大きな影響が生じている。そこで地域づくり計画の策定支援や外部人材との協働交流連携を図り、多様な主体による地域づくりの推進、本町の生活文化等の継承・発展などの仕組みづくりを連動して展開することとしたものである。

## 事業の内容

### 事業の内容

- ・北部地区における住民ワークショップ(6回開催)
- ・早稲田大学、青山学院大学等の学生のべ40名が年3回合宿し、地域の資源や課題把握→地域資源を活用した地域づくり提案をコンテスト形式で発表  
「うまるぞおぐに杯地域課題解決コンテスト」の開催
- ・地域住民と学生が、6次産業化中央サポートセンタープランナーとともに、特産品開発、販売、販路開拓のためのマーケティングや既存商品の販売体験を実施
- ・本町の生活文化や生活技術の継承、外部人材との協働連携のための組織化に向けた講演会の実施や必要な物品の購入、拠点となる施設等の検討

### 総事業費

12.2百万円

### ポイント

地域と学生・協力隊などの外部人材をつなぐ役割の重要性

## 事業の成果

- ・小国町北部地区において、住民ワークショップを開催、先進地視察等を実施したことにより、地域の住民自らが地域をどうしていくか、検討していく契機となった。
- ・早稲田大学等の学生が地域の人、食、自然などの魅力に埋まり、早稲田大学ボランティアセンター公認サークル「いぐべおぐに」が設立され、継続的・計画的に町を訪れる仕組みが構築された。
- ・地域住民が、生活文化や技術の継承、外部人材との連携のための組織の必要性を認識するとともに、その拠点となる施設の機能について取りまとめた。

## 山形県小国町



【計画策定のための住民ワークショップ】



【特産品販売・マーケティング(有楽町)】



【学生による地域づくり提案発表】 17

# 世界遺産熊野古道を活用した集客交流事業

## 概要

熊野市の高齢者比率は36.9%であり、平成17年～22年までの5年間で人口減少率は7.8%となっており、過疎高齢化は、当市における最大の課題となっている。

一方、平成26年3月に紀勢自動車道が全線開通、平成26年7月には、世界遺産熊野古道が世界遺産登録10周年を迎えるなど、集客交流を図る絶好の機会を迎えたため、世界遺産・熊野古道を活用し、①交流人口の増加、②熊野のファンづくりにより交流頻度の増加を目的に各種事業を実施。

三重県熊野市



## 事業の内容

総事業費 10.9百万円

### 付加価値の創出（熊野古道ウォーク+α）

#### ●熊野古道謎解きアドベンチャー事業(2,578千円)

謎解きを楽しみながら熊野古道を歩く事業を実施

#### ●熊野古道よみがえりウェルネスツアーIN熊野開催事業(413千円)

健康増進を目的とした熊野古道ウォークを実施。高齢者でも簡単に高い運動効果が得られるノルディックウォークの実施とヘルシーメニューを提供するツアーを商品化。

### 満足度の向上（新規及びリピーターの獲得）

#### ●熊野古道客に対する2次交通確保対策事業(5,352千円)

熊野古道への送迎を図るために無料のシャトルバスを運行。

#### ●観光コース作成PR事業(500千円)

従来の観光名所等を羅列するパンフレットの切り口を変え、通に受けるテーマを絞った観光コースを作成。「熊野〇〇めぐり」と題し、テーマ別に5種類のパンフレットを作製・PRを実施。

### 情報発信（外国人観光客の誘致）

#### ●観光アンバサダー推進事業(965千円)

在日外国人及び留学生を観光アンバサダーに任命し、熊野古道を中心とした観光資源の情報をSNSや母国の旅行サイト等を通じて情報発信する。

#### ●観光案内スマホ活用事業(1,064千円)

スマートフォンアプリを活用し観光情報や観光案内を実施。日本語だけでなく、英語・中国語・韓国語に対応した情報発信を実施し観光情報の多言語化を図った。



熊野古道シャトルバス



観光アンバサダー任命式



よみがえりウェルネスツアー

## 事業の成果

高速道路の全通及び熊野古道世界遺産登録10周年の効果もあり、平成26年の熊野市内の熊野古道来訪者数が過去最高の227,339人（前年比+35%）を記録。アクセス向上により、個人の来訪客はもとより、本事業で開始した熊野古道への2次交通（無料シャトルバス）の利用を行程に含んだツアーの販売が予定されるなど交流人口・交流頻度とも増加傾向にある。今後も熊野ファンづくりによるリピーター拡大を目標に、交流人口と交流頻度の増加に取り組む。

# 島民参加型観光ネットワーク整備事業

## 概要

島外から人を呼び込むことで地域の活性化を図るため、島民参加型観光ネットワーク整備事業によって「人を呼び込むシステム」を構築し、交流人口の拡大をめざす。

## 事業の内容

- **ポイント管理システム整備** : 島内外を問わず観光サポーターとして登録、しまへの誘客に応じてポイントが付与され、溜まったポイントを商品券等と交換できるシステムを構築。
- **島民おもてなし体制整備** : 講師と市長の対談方式によるおもてなし講習会を開催し、島民のおもてなし意識の向上を図るとともに、観光サポーター制度の事業説明を行った。

総事業費

10.1 百万円

ポイント

- ポイント処理(加算・減算)と商品交換等を一括したシステムによって効率的・効果的に管理できる。
- 観光サポーターに対して壱岐の旬な情報をメルマガやダイレクトメールで発信することで、リピーターの確保や拡散性、新規の観光サポーター開拓に期待できる。

## 事業の成果

- ◇島内の観光案内所や観光施設のパソコンにシステムをインストール、バーコードリーダを設置し、システムによるポイント加算、商品券等の交換後のポイント減算処理を実施できる環境を整備。  
【サポーター登録数】島内94名 【加盟宿泊施設】29施設
- ◇既存の制度とうまく組み合わせることで、より効果的な誘客をめざす体制ができた。  
※「一支國国民証」(=船の割引などのお得な特典が受けられる市の制度)の機能を融合させ、1枚で2つのしくみを利用することができるカードとした。
- ◇今後は主に島外の観光サポーターを増やすために、壱岐市観光連盟と連携して「関東」「東海」「関西」および「福岡」壱岐の会へ周知・宣伝を行い、さらなる観光サポーターの増加を図る。

## 長崎県壱岐市

### 〈講習会のようす〉



### 〈サポーター募集チラシ〉

サポーターになって、壱岐の島を盛り上げよう!

**いきいき 観光サポーター 大募集!!**  
【登録無料】

あなたもお友達も! どちらも得するサポーター制度。  
**ポイント貯めて特典ゲット!**

### 〈ポイントカード〉



# シルバー人材と再利用資材を活用した低コスト空き家改修事業

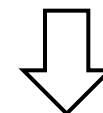
## 概要

移住定住促進のため、空き家を確保し改修し、移住希望者に滞在・定住できる場所を提供する。税金投入を抑え、継続しやすい取組として定着することを目指し、現役を引退した大工による改修や再利用資材の活用、運営方法を検討、試行する。

鹿児島県伊仙町



改修・清掃前



改修・清掃後

## 事業の内容

### 事業の内容

本事業は、より多くの空き家が移住希望者等に提供される仕組みを検討、試行することを目的とし実施しました。空き家活用を進めるため、空き家活用が集落にとって様々なメリットをもたらす事をより多くの住民(島外在住家主含む)や住宅関連業者にまず理解してもらい、住民等への波及効果の高い「空き家改修プラン」を本事業で提案し施行しました。

### 総事業費

10.5百万円

### ポイント

### 「空き家改修プラン」

空き家の貸主が町内施工業者に改修費用の見積をさせ、貸主が支払う仕組み

## 事業の成果

右記の空き家調査と別に、伊仙町空き家バンクに登録のあった鹿浦集落3件の空き家を改修プラン物件として、本事業実施に協力をいただき、本町空き家活用の新たなモデルとなる成果を挙げました。

伊仙町：事業対象集落の空き家調査結果	
調査日：	平成26年6月27日
調査集落：	西阿三・鹿浦
集計日：	平成26年7月25日
調査対象件数(区長回答)	9
未調査(町による調査物件)	1
調査物件数	8
★★★ (良質物件)	0
★★ (悪くはない物件)	4
★	4

# 輪島未来創造 若者×高齢者<TSUNAGARU>地域文化「輪島朝市」継承事業

## 概要

日本三大朝市である輪島朝市の地域文化を持続的に継承するため、専門家によるセミナー(H27. 2. 18)やモニターツアー(H27. 3. 23~25)を実施し、その成果を踏まえ、行政と朝市組合(4回)、地元商店街(3回)、地元高等学校のワークショップにより、将来ビジョンをとりまとめた。

石川県輪島市

〔セミナー〕



## 事業の内容

### 事業の内容

- ①朝市将来ビジョンの構築
- ②売り手担い手育成、販売促進の推進
- ③体験プログラムの推進
- ④実務アドバイザー活用(セミナー、モニターツアー)
- ⑤輪島朝市公式HP制作

### 総事業費

10. 1百万円

### ポイント

- ・官(輪島市)民(朝市組合。商店街等)学(輪島高校)の協働による事業実施
- ・外部の専門家(地域ブランディング、旅行商品造成、地域プランニング)の活用

〔モニターツアー〕



〔WS〕



## 事業の成果

- ①関係団体等の合意形成に基づく将来ビジョンの策定
- ②専門家による輪島朝市の強味・売りの評価(例.露店主との会話)
- ③身の丈の事業実施気運向上(例.朝市組合:「買ってクダあ→見てってクダあ」の意識転換、商店街の街なみ修景、(仮称)オール輪島交流観光まちづくり懇話会設立)

# 真田幸村公 大坂城入城400周年を活かした地域づくり事業

## 概要

和歌山県九度山町は人口4,700人の過疎の町である。特産品富有柿をはじめとする第一次産業が主力であるが、後継者不足や少子高齢化が深刻な問題となっている。現在は世界遺産・戦国武将真田氏、清流丹生川など地域資源を最大限活用した地域づくりを進め、観光による活性化を推進している。

## 事業の内容

### 事業の内容

本町ゆかりの戦国武将「真田幸村公」(=町民のヒーロー)をテーマとした地域づくりを推進する。そのことにより地域資源のもと住民の意識を一体化させ、また、対外的には「真田氏ゆかりのまち九度山」を大々的にPR、交流人口の増加を目指す。具体的には①まちなかエリアの基本計画(構想)の策定②記念イベント開催③観光PRツールとしての甲冑制作を行う。

### 総事業費

12.9百万円

### ポイント

- 町民の地域資源に対する意識を高め(地元愛の再確認)、住民参加型のまちづくりを推進する。
- 真田氏ゆかりの各自治体と連携することで、1地域で行うよりも効果的な情報発信、交流人口の増加を推進。

## 事業の成果

- ①住民参加によりまちなかエリアの計画を策定する事が出来た。今後の事業実施についても住民と一体となり推進する気運が高まった。
- ②ミュージカルを柱としたイベントを開催。真田氏ゆかりの各自治体(長野県上田市、大阪市)とも連携、町民の意識向上と共に対外的に「真田氏ゆかりの地九度山」を情報発信した。
- ③真田三代(真田昌幸・幸村・大助)の甲冑を制作し、特産品や観光PRに活用した。現在の戦国ブームに乗って甲冑姿によるPRは非常に注目を集めた。次年度以降も効果的に活用する。

## 和歌山県九度山町

### 基本計画検討会



イベントの様相



甲冑を活用したPR活動





# 「徳地和紙」に代表される“和”産業による伝統文化の継承事業

～地域の伝統文化を後世に伝えるものづくりと交流による職人の育成～

## 概要

800年以上の歴史を誇る伝統工芸「徳地手漉き和紙」が後継者不足等により伝統文化の継承が困難になっている。こうした課題に着目し、伝統文化を広く伝え、原料生産から和紙商品販売までの事業化(6次産業化)につながる仕組みづくりや新たな担い手の受け皿づくりを行うことで、徳地和紙を地域資源・観光資源として持続可能な徳地和紙産業を構築する。

山口県山口市



## 事業の内容

### 事業の内容

- ①プロジェクトチームの立ち上げ
- ②地域住民や市民等への啓発
- ③和紙原料の栽培・販売等の研究
- ④和素材の商品化研究及び和産業の育成
- ⑤「徳地和紙」(TOKUJIWASHI)ブランドの育成
- ⑥「徳地の和」モデルルームづくり
- ⑦後継者人材の発掘・職人育成の仕組みづくり

総事業費

10.0百万円

### ポイント

- 地域団体、大学、NP法人の連携による商品開発、ブランド化
- 徳地和紙ブランドの確立と進展
- 地域団体、伝統工芸者、受入地域で連携した新たな担い手の受け皿づくり

## 事業の成果

- ・地域での伝統文化継承に向けた機運醸成
- ・後継者への技術継承の受け皿構築(後継者候補として地域おこし協力隊予定)
- ・和紙原料の生産地拡大と生産者創出
- ・徳地和紙の商品開発の販路開拓や、ブランド化の進展(事業化の下地づくり)



徳地和紙  
TOKUJI WASHI

# 価値観再生と地域磨きによる農村回帰たけたプロジェクト

～「たけた市(いち)」「エコミュージアム地域資源発掘」でふるさと高付加価値化～

## 概要

竹田に宿る伝統の「技」を用い、現代の生活者のニーズに合った製品の開発に取り組む。開発された製品は城下町で開催される「たけた見本市」を通じて紹介され、中心市街地・“市”としての機能の再生と、“竹田ならではの暮らし”の構築を目指す。

展覧会・ワークショップを通じ、竹田の伝統産業・伝統工芸の周知に努めると同時に、現在も活動する作家の手仕事を、ホームページやパンフレット、プロモーションビデオの作成を通じ発信する。

## 大分県竹田市



伝統の「技」周知事業



プロモーション事業



製品開発披露式



たけた見本市

## 事業の内容

### 事業の内容

- 竹田の竹工芸と『aeru』（株式会社和える）とのコラボにより「竹のベビーベッドメリー」を開発
- 「竹のベビーベッドメリー」と竹田在住の作家の作品を紹介する「たけた見本市」を開催（竹田市・東京）
- 伝統の「技」周知事業：“絞り染め”の展覧会と野焼き陶芸体験ワークショップを実施
- 竹田在住作家の活動を紹介するプロモーションビデオやパンフレット、ホームページの制作

### 総事業費

10.0百万円

### ポイント

地域資源を活用したイノベーションだけでなく、それを市民の日常の中に取り入れてもらうためのコミュニケーションを図ることが本事業の最大のポイントであった。その延長上に“竹田ならではの暮らし”が構築され、地域のコア・コンピタンスを形成していくことが狙いであった。

## 事業の成果

「竹のベビーベッドメリー」のにより、竹工芸家の生活基盤の確立や雇用創出の下地が整えられた。また、竹田の竹工芸が広く知られるきっかけとなり、移住作家の獲得にも大きな後押しとなった。他の分野で活動する竹田在住作家についても、「たけた見本市」や様々なプロモーションツールにより市内外に広く周知された。竹田に宿る伝統の「技」を、改めて市民を中心に体験してもらう機会を創出し、継承していくためのきっかけづくりとなった。